

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990600157		
法人名	社会福祉法人 熊晴会		
事業所名	グループホーム あさひ芹沼		
所在地	栃木県日光市芹沼1739番地41		
自己評価作成日	令和3年9月6日	評価結果市町村受理日	令和3年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokanr1.nsf/aHvokaTop20">www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokanr1.nsf/aHvokaTop20</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	令和3年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染予防の為、外出が出来ないので施設内で楽しく過ごして頂けるよう工夫をしている。</li> <li>・敷地内でヨモギを取り、草餅を作ったり手作りたこ焼きなど、利用者と一緒に作っている。</li> <li>・ドライブにて桜の花を見たり、ゆかりの地を巡ったりしている。</li> <li>・SLの時刻表を掲示、時間を見てデッキや施設外に出て手を振る事を楽しみにしている。</li> <li>・一人ひとりのできる事、役割を見極めて日常の生活を生きがいを持って暮らせるように工夫をしている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所では、利用者一人ひとりの思いや意向を把握するため、様々な生活場面でのコミュニケーションを大切にしている。たとえ、意思疎通が困難な方でも、分かりやすく、理解しやすいように話しかけるなど、各利用者の能力に合わせた対応を行っている。</li> <li>・コロナ禍の中でも、できるだけ近所の散歩を行ったり、ドライブスルーできるものを一緒に買いに行くなど、外に出掛ける楽しみや人との交流を支援している。また、住んでいた家の近くまでドライブするなど、利用者が馴染みの場を忘れず、感じてもらえるように取り組みをしている。</li> <li>・日頃の掃除や家事、着る洋服と一緒に決めたり、入浴剤を選んだりなど、本人が「やりたい」、「選びたい」を実現できるように支援している。また、趣味を続けたり、特技を発揮できるように利用者一人ひとりにあったケアを全職員で考え、サポートしている。</li> </ul>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が認識できる位置に掲げ、一人一人の出来る家事や趣味をカンファレンス等で話し合いながら実践につなげている。	事業所理念を実践するために、行動指針を作り、実際の介護に活かせるようにしている。管理者は、入社時や月に1度のカンファレンス時にも理念について触れ、普段から意識できるように取り組みをしている。また、年に1度、全職員で理念に基づいた介護ができていないか確認し合う機会も設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止対策までは地区、自治会の祭り、運動会に招待頂きながら、地域との交流が行われていた。	自治会に加入し、自治会長や近隣の人たちとのつながりがある。コロナ禍前は、地域の祭りや運動会に招待され、行事に参加していた。また、近所の中学生の職場体験を受け入れたり、利用者が作ったお手玉や雑巾を小学校に寄付するなど盛んな交流があった。	今までの地域の人々との関係性をさらに強めつつ、まだ交流の少ない人たちもお付き合いができることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や広報紙などで理解・支援をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染防止対策までは、ホームで開催していましたが現在は、暮らしぶりやヒヤリ・事故報告等を書面にてお伝えし、ご意見を頂いている。	運営推進会議は自治会長、家族代表、市の担当職員で構成され、意見を伺っている。現在は、書面での開催ではあるが、事業所の利用状況や事故報告等をメンバーに伝えている。以前、事故報告等の内容について、メンバーから詳細を知りたいという意見があり、改善したことがある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修には出席に努めている。単独外出されてしまう方の相談をし、アドバイスを頂いたりしている。	市の担当者とはFAXやメールで連絡をとりあい、事業所の実情を伝え、助言を得ている。年に3～4回実施される市主催の研修会に出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の身体拘束委員会にて、理解を深め身体拘束しないケアに努めている。	管理者が資料を選定し、内部研修を実施している。利用者一人ひとりの傾向を職員が把握し、さりげなく声をかけたり、一緒についていくなど、安全面に配慮しながら利用者の行動を抑制しない取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会において、学びながら防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用の方が入居されたことで、必要性や制度について学ぶことができ、支援しながら理解を深められている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族様の不安・意見を聞き入れながら説明を行い、理解・納得を頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様には電話や来所時に意見・要望が頂けるような関係性に努めている。利用者には日常の会話から、聞けるように努めている。	利用者とは、普段の会話や出来事から意見や要望を伺っている。食事のことや生活のことについての意見が多く、会議などで取り上げ、話し合っている。家族に関しては、コロナ禍前は家族会を開き、意見を伺っていたが、現在は電話でのやり取り時に伺い、反映できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、申し送り等で意見や提案を聞き入れながら、反映に努めている。	朝礼やカンファレンス、職員会議の他、日々の業務の中で管理者自らが職員に意見を聞いている。過去には、勤務時間や備品選定の要望があり、見直しを行った。また、必要に応じて、管理者が職員と個別面談する機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新型コロナウイルス感染防止対策の為、管理者も直接には聞ける機会が無いが環境・条件の整備には努めてきている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修、トレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルス感染予防対策もあり、法人内のみとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	伝えにくい方は家族様やサービス関係者に聞きながら、本人の安心が確保できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安、要望等を聞きながらサービス内容の説明、確認を行いながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を見極め、他のサービスを含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備・片付け、朝の掃除、洗濯物を干す・畳むなど一緒に行うことで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や来所時に生じた問題の状況や利用者の訴えなどを伝え、一緒に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染対策の為、難しい現状ではあるがドライブにて家の近くや馴染みの場所を訪れている。	ドライブを行い、本人が以前住んでいた家や行きつけにしていた店舗を巡っている。また、散歩に出掛けた時には、知人や店主と挨拶を交わすようにし、コロナ禍でもできるだけ馴染みの人や場の関係継続を支援できるように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係の把握に努め、交流の場を設けたり、席の配置を変えたり声掛けしながら、関わり支え合う支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、関係性を大切にするように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族様から聞き取りながら困難な方は行動、仕様などから把握に努めている。	普段の会話から、食事や入浴時など、様々な場面でコミュニケーションを多くとり、本人の思いや意向を把握できるように努めている。また、意思疎通が困難な方には、家族から情報を得たり、「本人はどうか」という視点に立って、支援にあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、暮らし方など本人・家族様より聞き取りしたアセスメントシートを作成。新たな情報があれば追加しながら、職員間で共有しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方、心身状態、有する力等を見極めることに努めている。掃除時には、役割分担している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族様の意向をもとに日常のケア、カンファレンス等で生活の様子、状態の変化などを収集しながら計画作成担当者が計画の見直しをしながら、介護計画を作成している。	計画作成担当者が日頃のケアに携わり、他の職員と情報共有しながら計画書を作成している。また、普段の業務の中やカンファレンスの中で、本人に変化が生じている場合は、都度、計画書の見直しを行っている。モニタリングは、計画作成担当者が行っているが、職員に状況等を伺いながら、計画書に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を日誌に入力しながら、カンファレンス申し送りや情報共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに対して、本人、家族様と話し合ったり、職員で話し合いながらサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理解も得ることができ、行事に招待を頂けている。昼食に出前、外食を利用している。昨年、今年度は開催中止である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人・家族様の希望を優先している。協力医では定期健診をお願いしている。家族様対応の受診においては、必要時には施設情報提供書を作成し、適切に医療が受けられる様に支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医を一番に尊重している。受診の送迎は、家族が行っている。家族には、事業所から情報提供書を渡し、医師に日頃の状態が伝わるようにしている。また、事業所の協力医に変更することは可能であり、適切な医療を受けられるように対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師有資格者にオンコール対応をお願いしているので、日常でも相談が出来る。必要時には、協力医にも相談・指示が受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係者との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りをしてない事や通院介助等を、申し込み・契約時に説明して理解を得ている。必要に応じて本人・家族様と話し合いながら支援に努めている。	申込みの段階で看取りをしないことについて説明している。また、本人の状態変化がある場合には、家族と話し合いをもっている。時には、特別養護老人ホームの申込みを提案することもあるが、重度化しても出来る限りのケアができるよう、事業所全体で日々検討されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は書面化している。定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練実施。カンファレンスにて、避難方法を確認している。地域では自治会長に連絡すると地域の協力が頂ける。	近くにある消防署や自治会長の協力を得て、利用者と共に年2回の避難訓練を実施している。職員も交互で参加し、全職員が避難方法などを周知できるように努めている。また、停電に備え、自家発電機購入を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した、言葉使い対応に努めている。職員間では、部屋番号で申し送りをしている。	プライバシーに配慮し、利用者の名前を部屋番号にかえて申送りや会議をしている。利用者の誇りを傷つけるような直接的な言葉をさげ、さりげない対応をしている。また、日頃から掃除や洗濯たたみ、趣味の縫い物など、利用者がやりたい事を尊重し、支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や行動の観察、傾聴に努め、思いや希望を聞き出しながら自己決定にできるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや過ごし方を把握し、希望にそって支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣が困難な方には配慮した、支援をしている。必要に応じて、家族様に相談をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みに沿うように調理したり、利用者と一緒に準備や片付け、食事をしている。	利用者の好みや季節を感じられる献立を考え、手作りしている。野菜の下処理や盛り付け、テーブル拭き、箸並べ、片づけを利用者とともにやっている。職員と利用者が同じ食卓を囲み、一緒に食事をしている。また、出前を取って、普段とは違った食事の楽しみ方も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を入力。一人ひとりの状態を職員間で共有しながら、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、必要な方には支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを活用。必要に応じて、トイレ誘導をしている。	トイレでの排泄を大切にしている。排泄チェックシートでパターンを把握し、さりげない声掛けで誘導している。リハビリパンツやパッドを本人の状態に合わせて検討し、夜間は声をかけて誘導するなどして、個々に合わせた排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操、乳製品の提供。排便チェック表を活用し、協力医と相談の上、服薬を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ほぼ週3回の提供ができています。一人ひとりのタイミングに応じた支援をしている。	週3回の入浴を行い、午前と午後の時間が選択できるようにしている。入浴を拒む方には、言葉かけや時間をずらすなどの対応をしている。また、入浴前は洋服や入浴剤を一緒に選び、入浴後には爪切りや保湿剤を塗布するなど、入浴への関心や楽しみを図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの入床・休息の時間が違うので、状況に応じて支援している。空調器の管理をしながら、気持ちよく眠られるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	半数の方が、服薬についての理解が難しい状況である。症状の変化が見られる場合、協力医または家族様に報告し、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力量に合わせた家事をお願いしたり、塗り絵、パズル、ゲーム、雑談などで気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法人より、新型コロナウイルス感染予防対策の為、受診以外の外出が禁止となっている。ドライブのみ、施設付近の散歩支援をしている。	コロナ禍でも近辺の散歩やドライブに出掛けるなどし、利用者が気分転換ができるような外出を行っている。また、事業所の目の前には、鉄道が通っており、歩いて見物に行くこともあり、利用者の楽しみともなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持することは困難であるが、お預かりしていることは伝えているので、希望に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らが電話を出来るよう、支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の配置や季節を感じてもらえるよう、設えている。居室においては、毎日の掃除と環境整備の努めている。	リビングにある大きな窓からは、季節の移り変わりが感じられる作りとなっている。ダイニングは、間仕切りなくキッチンからも利用者の様子を見ることができる。利用者には、調理の音や匂いを感じられる作りとなっている。毎朝職員と利用者でダイニングや居室を掃除することが日課となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席以外でも思い思いに過ごせるように配置している。デッキにも椅子、テーブルを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族様の好みの品が持ち込まれている。仏壇やお手製の絵馬、作品を飾っている。	職員と一緒に利用者が居室を掃除している。衣類は季節ごとに入れ替えるようにし、趣味の作品や思い出の写真を飾ったり、仏壇を持ち込んだりしている。その人らしさが感じられるような、居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」や「わかること」を見極めながら、自立した生活が送れるように工夫している。		